

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294200809		
法人名	(株)ケアクオリティ		
事業所名	グループホームケアクオリティゆとりあ	ユニット名	1F
所在地	静岡県静岡市葵区田町3丁目30-1		
自己評価作成日	平成29年11月1日	評価結果市町村受理日	平成30年1月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&lgvosyoCd=2294200809-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限公司 福祉第三者評価 調査事業部		
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1		
訪問調査日	平成29年11月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自立支援を念頭に安全確保に努めながら、出来る事を明るい雰囲気の中で職員と共にして頂いている。「外出支援を増やす」を年間目標に忙しい中でも散歩を支援し、地域・学校の行事に参加している。今年度は地域交流を主に置き、町内夏まつりや地区社協主催の田町学区ふれあい祭りにブースを出すなど、利用者様・職員共に交流の機会を増やした。職員間では相互に気持ちよく仕事を為すの気配り・目配りをモットーに、チームケアの大切さに重点を置き支援に取り組み、月1回の施設内研修は継続して行い、より良いケア、またスタッフのレベルアップに取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

温厚な人柄の管理者の下で職員も各々の持てる力を十分に発揮し、日々利用者と向き合い一丸となって支援に努めている。利用者は生活の中で散歩や外食・弁当持参の花見などに出かけ、四季の移り変わりを楽しんでいる。玄関や共有空間の壁の飾りつけにも四季折々の工夫が施され、来館者の目も楽しませている。窓越しに届く自然光と、居間でゆったりと寛いでいる利用者の姿が見られた。会社理念の「共に生きる・共に歩く」とともに、「ゆったりと安らぎ、共に地域の人達にふれあい、理解しながら、ゆとりある暖かい家族のようなホーム」を事業所理念に掲げ、実践している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入職時オリエンテーションや、会議等で理念に触れ共通意識が持てるようにしている。	毎年、年頭のカンファレンス時に全職員で唱和し確認し合って周知と共有を図っている。多様な業務の中で理念を共有し実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭りの手伝いや敬老会等への参加、又はピアノボランティア・学生の職場体験の受け入れを行いなじみの関係の構築に努めている。	民生委員や町内班長の訪問があり、情報交換と助言を受けている。自治会と町内の夏祭りの販売ブースに職員も参加し、地域との交流を深めている。地域からの要請で「子供110番」の受け入れを検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日常行っている散歩・買い物・近所での外食、ボランティア・実習生・見学者の来訪等で認知症の人の理解を得ている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度運営推進会議を開催し、施設の現状報告をすると共に、外部の方の意見や違った角度からの見方を知り役立てている。	利用者や地域住民・民生委員・地域包括支援センター職員等の参加があり、年間6回の開催を議事録から確認できた。会議での意見を運営に活かし、参加者からの要望も検討して適時対応している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月、生活相談員の訪問があり、生活保護・権利擁護の利用者もいるため、定期的な面会を行っている。	市への提出書類は管理者が持参し、職員との交流を図っている。生活支援課との交流は密に行われ、協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束ゼロ」宣言を行い、玄関の施錠はせず自由に出入りできるようにしている。内部研修や外部研修等への参加で職員全員が共通理解し実践に取り組んでいる。	職員は内部研修だけでなく、介護福祉士会主催の身体拘束フォーラムなどの外部研修にも順次参加し実践につなげている。身体拘束の実例は無く、現在に至っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修で虐待についての理解を深め安心した生活を送って頂けるよう防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修等で学んでいるが、理解度は低い。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、ご家族や利用者様に十分な説明を行い不安や要望を聞き理解や納得に繋げている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者とは日頃の関わりを大切にし、ご家族の面会時には話しやすい雰囲気作りに留意し十分な説明や意見交換を行い運営に活かすよう努めている。	職員と利用者・家族は話し易い関係にあり、事業所の行事にも多数の家族が参加している。発言が少ない利用者も、積極性の高い利用者と同席することで、表情と応答が好転したなどの例もある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンス等だけではなく、日常、意見や疑問を言いやすい関係をつくり、職員の提案などを運営に反映している。	ヒヤリハットは発生時に口頭で伝えられていたが、職員の提案で申し送りノートを活用することで伝達がより正確になった。管理者と職員も話し易い環境にあり、意思疎通も図られている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本年は定年の引き上げ、ベースアップ、各手当の増額を行い、人材確保・定着に努めている。資格手当も高く設定し、取得の意欲を高めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	可能であれば勤務調整して参加してもらい、カンファレンスなどで発表の場を設け、本人の自信や知識の共有に繋げている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修や各種行事に参加し、交流を深め情報交換等をもってサービス向上の一助としている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	表情観察・積極的な声掛けにて傾聴・受容・共感に努め、御本人の不安軽減に繋げ、職員間の情報共有も徹底させている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時には日常の生活状況を伝えながら、家族等の不安・要望の把握に努め、月次報告書により定期的に様子を伝えて関係づくりを進めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回面接やプラン説明時に本人や家族等の求めているサービスを見極め、ケアに反映させている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	会話・家事を共にする中で、家族あるいは仲間のような安心して頂ける関係づくりをめざしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御本人、御家族等双方から互いの話を聞き、相互の絆を尊重しながら面会時には接している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	散歩・面会などで、これまで大切にしてきた関係が継続されるよう支援している。	近隣からの入居者が多く、知人の訪問が頻繁にある。ピアノを持ち込んで演奏する知人の訪問を心待ちにしている利用者もいる。職員は馴染みの関係が途絶えないよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの個性を尊重しながら、関係を把握し孤立することのないよう、時には職員が橋渡しをしながら支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居された場合は電話で様子をうかがったり、御家族がホームを訪ねて下さる事もあり相談には応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	困難な意向も真正面から否定することなく、なるべく要望に添えるようプランに反映したり、カンファレンス等で検討している。	入居時に家族・本人とのアセスメントで、本人の基本情報や思いを把握し、反映させたケアプランを作成する。日常生活でも本人に寄り添う事で、意思伝達が困難な利用者の表情やしぐさを察知し、プランに反映させるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族等から折に触れ、聞き取りを行い馴染みの暮らし方・生活環境の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝夕の申し送りを中心に、職員同士の情報共有を通して現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンスで本人・家族の意向、職員・Dr・Nsから得た知見や連携をプランに反映させている。	基本計画は長期で6ヵ月、短期で3ヵ月毎に作成している。毎月のカンファレンス時に介護記録や申し送りで作成したモニタリング資料や医師・看護師の助言、本人や家族の意向を評価し、現状に即したプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録・支援日誌・申し送りノート・朝夕の申し送り等で情報を共有しプランや日々のケアの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御本人に変化があった時には家族等と必要に応じて面談したり、緊急カンファレンスを開き柔軟な支援を目指し努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員の方や自治会の役員さんとも交流し地域資源の把握・活用によって御本人の暮らしに資するよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時、協力医との連携を説明し家族等に納得して頂いた上で受診・往診対応をしている。	月2回、利用者全員が主治医としている協力医の往診がある。週1回訪問看護師の巡回訪問もある。総合病院以外の受診は職員が同行するなど、医療に関する環境は良好である。協力歯科医への受診も職員が同行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回訪問看護時に利用者様の健康状態や生活の様子を報告・相談し、指示や意見を聞いています。特変時にも対応してもらっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院に出向きDr・Nsと情報交換し、適切な治療と早期の退院受け入れができるようつとめている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療連携のもと、御家族の意向をくみ取りながら、御本人にとって何がベストかをカンファレンスで検討しつつ支援に取り組んでいる。	重度化した場合や終末期に於ける事業所の基本的関わりは入居時に説明し、家族の同意を得ている。看取りについても医師の助言に基づき、訪問看護師や家族の協力を前提に職員が諸情報を共有して支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修に参加した職員にはカンファレンスにて発表してもらい、知識等の共有を計っている。緊急時対応については度々訓練・申し合わせをしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2カ月に1回防災訓練を実施し、誘導・通報・炊き出し等を訓練している。運営推進会議では民生委員の方の意見を頂き、地域の防災訓練にも参加している。	事業所所在の地域全体が、古くから家内工業を含む中小家具や木工製品工場・塗装工場の密集地であり、地域全体が火災等災害についての関心が高い。事業所内での防火設備は整っており、地域住民相互の協力意識はある。	自治会との関係は良いが、地域自主防災組織との関係は不透明な部分がある。組織が事業所をどの様な視点で考えているか、事業所は何を求めて関係を維持するかを明確にしたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先達であることは認識しつつ、その人の好みや意向を考慮に入れて対応している。共同生活であるのでプライバシーの確保には気を付けている。	入職時の研修で介護職として人の尊厳を守る事の大切さの意義を学習し、職員はその心を実践の場で活かし利用者に接するよう努めている。利用者一人ひとりに寄り添い、話を聞いたり語りかける過程で生かされてきている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が自己決定できる様な対応・雰囲気作りを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員数という絶対的な制約の中で、可能な限り利用者様本位に1日を過ごして頂くよう配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時・入浴時には好みの服を選んでいただき、声掛けを行いながら髪を整える支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立の選定には利用者様の好みや季節感を考慮にいれている。特に片付けを中心に職員と共に出来る範囲で行なっている。	同席する利用者がお互いを気遣いながら食事をしている。職員は、献立の説明や時には食事介助しながら食事をすることもある。利用者各自が自分の持場を弁えており、食事の前後のテーブル拭きや食器拭き等の作業を静かに行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスの良い献立を心掛け、特に水分においては必要量を確保できるように個人の状態、習慣も考慮して支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、本人様の状態に合わせて声掛け・一部介助・全介助にて口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	申し送りや排泄表にて、排泄パターンや習慣を類推し、自立に向けた排泄支援を行っています。	記録表から排泄パターンに沿った適時の声掛けや誘導を行っている。些細な訴えや動作で排泄を察して支援する利用者もいる。自尊心を傷つける事のないように気を配り、日中は多くの利用者が快適に生活している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分・食事・運動に重点を置き、医療連携の元、服薬にても予防につとめている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	各種制約の中ではありますが、出来るだけ御本人の希望に添えるように努力しています。	週2～3回の入浴を目安に支援している。入浴に関する利用者毎の習慣や希望は把握している。声掛けする時間帯などを念頭におき、入浴する楽しみが次回の入浴に繋がるような支援を心がけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の状況や普段の習慣に合わせ、日中においてもお休み頂き、夜間は安眠出来る環境作りを考慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方・説明書には目を通し、必要な情報の共有に努め、変更時には観察と医療への報告を行なっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の会話や御家族等との話の中で嗜好や傾向を類推し、楽しみごとや気分転換等の支援を検討実施している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日とはいかないが散歩等は支援している。地域の行事への参加、季節ごとの外出支援・外食は実施している。	事業所内で利用者の高齢化が進んでいる。外出支援でも、家族に見える形の支援が難しい利用者も増えている。季節ごとの空気を感じて生活する事も外出支援の方法と考え、庭に出るなどして外気浴をしている。個々の外出や外食は家族の協力で支援される事もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様の状況に応じて、支援をおこなっているが、難しい方もいらっしゃる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話のやり取りの希望があれば、可能な限り支援を行う。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活空間の衛生・温度・湿度・換気には細心の注意を払っている。壁面装飾等により、季節感も感じて頂けるようにしている。	広いリビングの採光は良く、明るく穏やかな雰囲気の中で日中を落ち着いて過ごすことができる。広い廊下は移動に安全である。共同空間の壁面には、利用者が季節を感じながら作成した作品や日頃の利用者の生活振り、敬老会等の写真が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間のテーブル配置を工夫し、廊下にもソファや椅子を置き、日向ぼっこを楽しめる様にするなどしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居されるまで使用されていた馴染みの物をホームでも可能なものは継続して使用して頂き、居心地よく過ごされるよう考慮している。	各居室は生活歴を感じさせる思いのある品々で飾られている。長年住み慣れた家庭での生活との違和感がなく、落ち着いた日常を過ごす支援をしている。利用者は職員と一緒に安全確保を重点におき、環境整備を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー・手すりにて安全確保に努め、日常動作や家事等「できること」「わかること」を見守りつつ支援している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294200809		
法人名	(株)ケアクオリティ		
事業所名	グループホームケアクオリティゆとりあ	ユニット名	2F
所在地	静岡県静岡市葵区田町3丁目30-1		
自己評価作成日	平成29年11月2日	評価結果市町村受理日	平成30年1月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&lgvosyoCd=2294200809-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限公司 福祉第三者評価 調査事業部		
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1		
訪問調査日	平成29年11月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様が穏やかで不安の無い日々を送られるよう、スタッフ一丸となって努力しています。個々の能力アップは勿論、あくまでチームケアであることを念頭にバランスのとれたサービス提供とその水準の向上を目的として、定期的に施設内研修を行いスタッフのレベルアップ、意識の改善を図っている。運営推進会議、地域行事の夏祭りや敬老会などへの参加を通して近隣との交流を進めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価票に記入されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社理念・事業所理念を事務スペースに掲示し実践に取り組んでいる。	※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価票に記入されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭り・防災訓練・敬老会等の行事に参加したり、2ヶ月に1度の運営推進会議に出席して頂いています。ボランティアの受け入れも行っています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で入居者様の状況を報告し、また各種行事への参加が認知症への理解に繋がるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、現状や活動内容を報告している。参加者からは地域の情報を得たり、介護業界・高齢者問題について情報交換している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者様には運営推進会議でアドバイスを頂いたり、生活支援課職員様とも1ヶ月に1度お逢いし情報交換や利用者様の近況報告をし協力関係の構築を図っています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、毎月開催する施設内研修で知識を習得し周知徹底している。玄関は夜間以外は施錠せず出入り自由となっています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	虐待についても施設内研修に於いて学び周知徹底している。また、虐待が見逃される事の無いよう職員一同防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修、または施設内研修等で理解できるようとりくんでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結・解約・改定の際は御家族様に説明し不安や疑問を解消し理解・納得して頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議・面会時・プラン説明の際に意見や要望を伺い、出された意見・要望はカンファレンスで話し合い運営に繋げている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスや日々の話し合いの中で意見・提案を発言出来る場を設け職員同士で話し合い、より良い運営に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	今年度は給与・手当のアップが行われ、職員の募集・定着の一助となると期待される。資格手当も高く設定され、取得への意欲を増進させている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修参加の為、可能な限り職員の勤務調整を図り参加を後押ししている。参加後はカンファレンスで発表してもらい、自信にもつなげている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修や催事への参加を促し、同業者との交流によってスキル向上に繋がるよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	表情観察や声かけにて傾聴・受容・共感に努め少しでも不安軽減に寄与するケアを心がけ、得られた情報はカンファレンス・申し送りにて共有している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時や面会時等に家族の意向・困っていることに耳を傾け、問題解決に繋がる支援が出来るように努めながら信頼関係の構築を図っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御家族・利用者様にお話を伺い必要な事柄の把握に努め、状況に応じた対応を心掛けています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事・出来ると思っておられる事を見極め、見守りのもと職員と共に生活の場でおこなっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の月次報告で現状をお伝えし写真もご覧頂き、面会時には近況報告しながら御家族の気持ちを傾聴し信頼関係の構築を図っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時には今まで使用していた馴染み深い物をお持ち頂き、家族・知人の面会等で関係の継続をはかっています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	催しやレクリエーションを通じコミュニケーションの場を提供したり、会話の橋渡しをし孤立する事の無いよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居された方へは電話で近況を伺ったり、御家族がホームを訪ねて下さったこともあります。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	モニタリング・アセスメントをカンファレンスで実施し、その人なりの生活とはなにか？を話し合い利用者様本位のケアに繋げています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回面接にて御家族・御本人から生活歴の聞き取りをし、サービス内容に織り込んでいます。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の心身状態に合わせ何が出来、何が大切かを把握し実施している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスで課題や方向性を話し合い、現状に即したプラン作成に取り組み、スタッフ全員で共有しケアに反映しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録等に記載したり、申し送りなどで利用者様一人・一人の情報を共有、周知徹底しケアに取り組みながら随時見直しを実施しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズに対応出来る様、関係者・職員間でその都度話し合いの場を設けたり、必要に応じてDr・御家族・管理者での会議を設定している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事への参加やボランティアグループにお越し頂く等。また散歩時には挨拶や言葉をお交わしてご近所とも触れ合っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診に加え、急変時の相談・受診・往診。病状に応じてDrから管理者・御家族への説明等、適切に医療連携を図っています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回、訪問看護師に来所して頂き現状を伝え相談・指示を受け、急変時の相談も対応してもらい利用者様が安心して生活できる支援を行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には生活歴・個々の特徴等を伝え、早期退院に向け看護師や相談員と連携を取るよう努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・終末期にはマニュアルに沿って対応し利用者様・御家族様の不安軽減に努め、Dr・Nsとの連携を図り職員間で情報の共有に努めています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルを、度々カンファレンス時に申し合わせています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を2ヶ月毎に行い、民生委員様の協力も得、近隣の方の避難所としてホームを開放することも伝える等、協力体制の構築を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として常に尊重し、丁寧な言葉使い・対応を心掛けています。特に排泄・入浴には配慮しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	表情観察や声かけに配慮し、思いや希望を表現しやすい雰囲気作りに努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者本位のケアに取り組み、希望に添える様にしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみは利用者様の状態に適した介助を行い、おしゃれに関しては好みの服を選んで頂く等、意向を伺いながら支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好・季節に配慮し、状態に合わせた食事形態やカロリーに気をつけている。用意・片づけも可能な限り一緒に行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分は食事時以外も数回に分けて提供し、食事形態・量に留意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実践しています。状態に応じ声掛け・誘導・介助・確認の支援に取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表にてパターンを把握し、声掛け・誘導・見守り・介助にてトイレでの自立に向けての排泄支援に取り組んでいます。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事内容・水分・運動面にも留意し、Dr・Nsに相談をかけ医療連携の元、個々に応じた支援に取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	制約はあるが無理強いはず、なるべく利用者の意向に添った形での入浴・足浴をめざしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状態に応じて日中でも自室にて休んで頂いたり、夜間帯は質の良い睡眠が取れる様に日中の過ごし方に工夫しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬名・効能・副作用等の把握に努め、変更時には他職員との情報の共有を図り誤薬の無いよう支援しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や普段の対応の中で、楽しみや出来ることを見付け提供の場を設けています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外食・季節の花見・地域の催し等には外出支援をおこなっている。日常的にも毎日は無理だが散歩にお誘いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理はホームでしている。利用者様の状態によっては職員見守りの元、支払いの場は提供している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望が有った時には手紙や電話のやり取りの支援は行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下・居間は季節毎に装飾を替えたり、温度調節・照明等にも気を配った環境整備に努めています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間のテーブルや椅子の配置を考慮し、廊下にソファを置くなど思い思いに過ごせる工夫をしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には今まで使用していた馴染み深い物をお持ち頂き、使い慣れた道具で安心して生活して頂く工夫をし、レク等で制作した作品を飾るなどもしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー・手すりの設置やトイレ・自室の表示等、安全かつ解りやすい工夫を心掛けています。		